

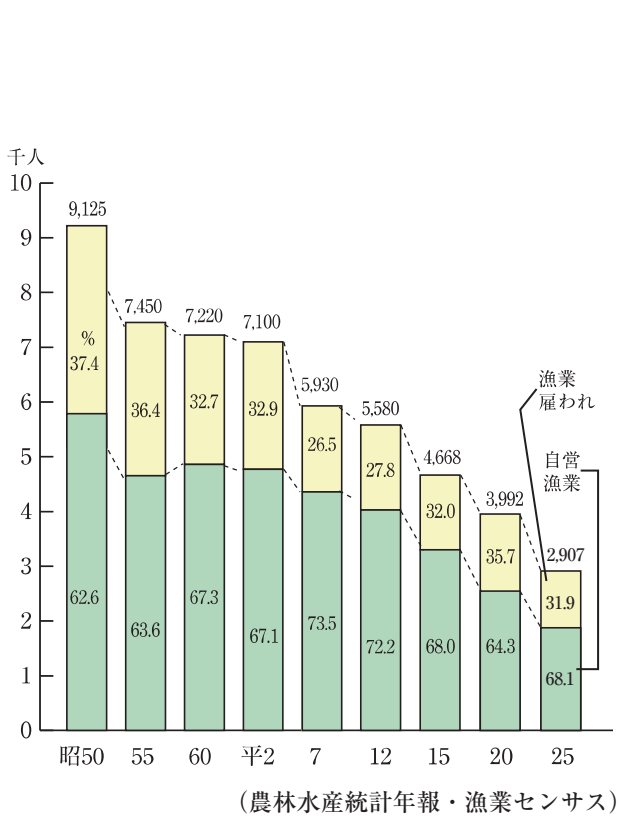
3 水産部門

1) 水産業を担う人々

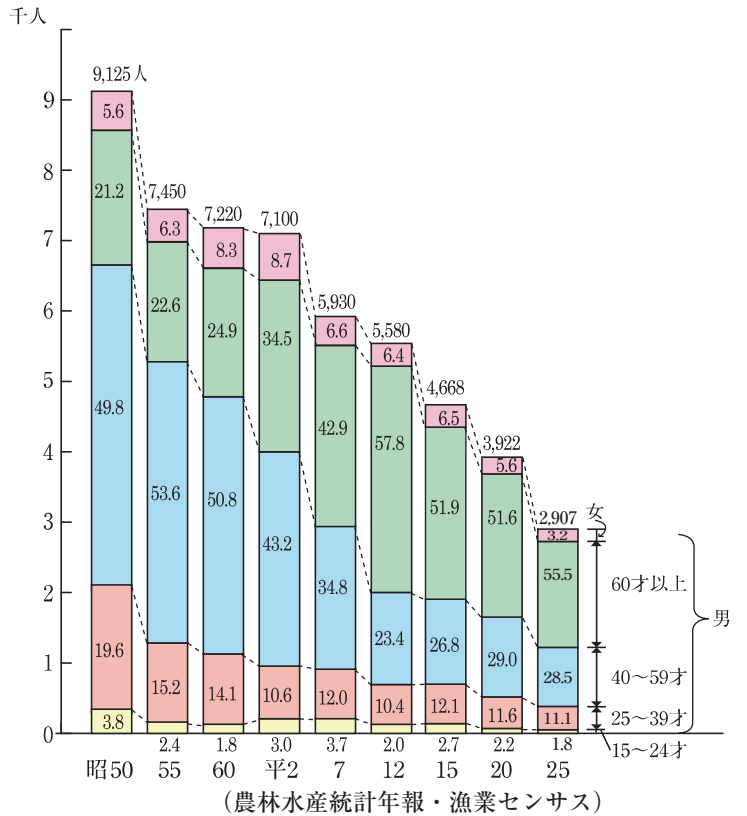
漁業就業者数は減少傾向で推移しており、平成25年は2,907人である。

また、自営漁業就業者のうち年齢別では60才以上の男子就業者が55.5%を占め、高齢化が進んでいる。

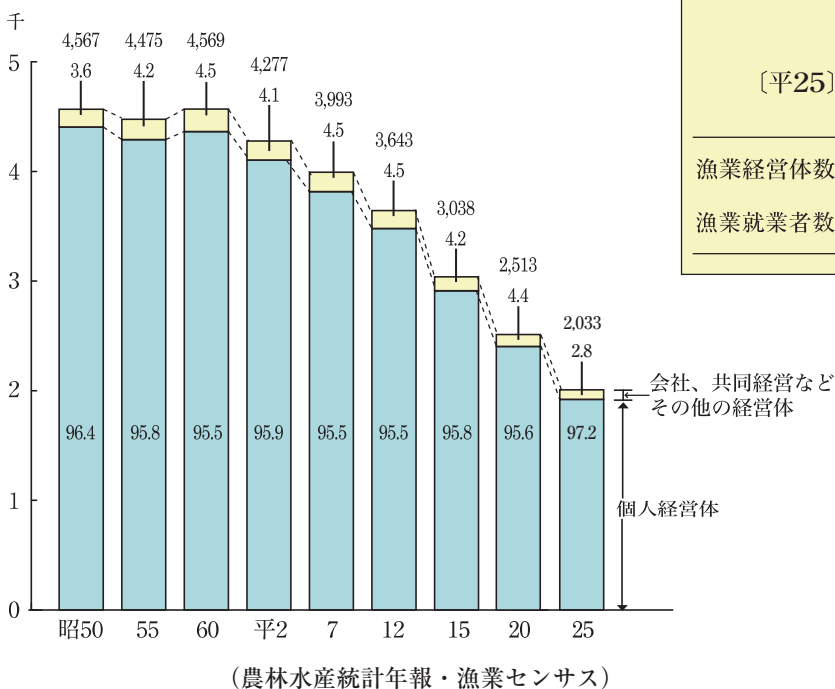
漁業就業者数の推移



年齢区分別漁業就業者数の推移



漁業経営体数の推移



漁業経営体数等

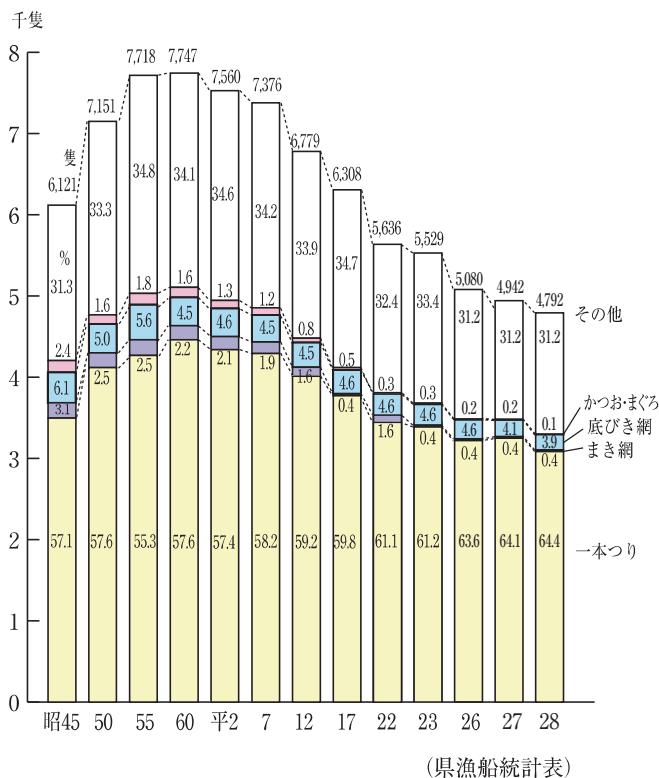
〔平25〕	全国	和歌山県	1位	2位	3位
	実数	実数 順位	シェア (%)	県名	県名 県名
漁業経営体数	94,507	2,033 20	2.2	北海道	長崎 青森
漁業就業者数(人)	180,985	2,907 23	1.6	北海道	長崎 青森

(2013年漁業センサス)

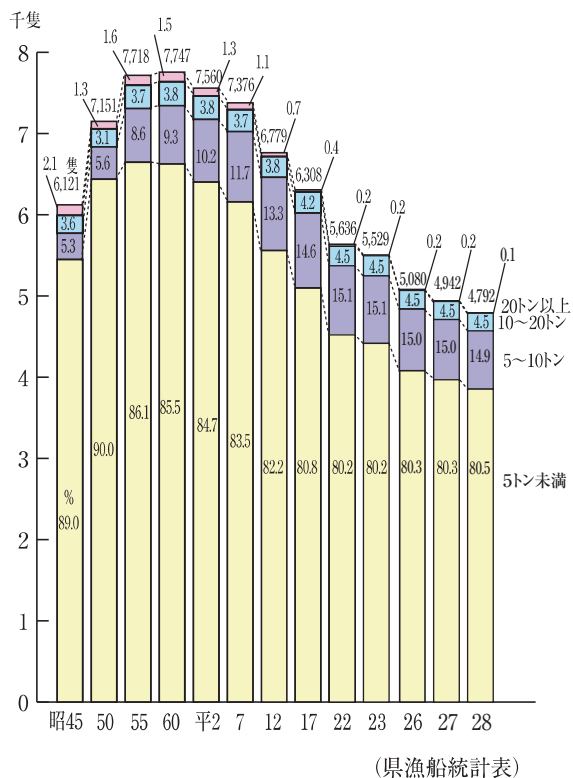
2) 水産業の基盤

海水動力漁船数は昭和60年をピークに減少傾向にあり、平成28年12月末日現在では4,792隻となっている。漁業種別では「一本つり」が64.4%、「底びき網」3.9%である。トン数別では5t未満の小型漁船が80.5%と大半を占めている。

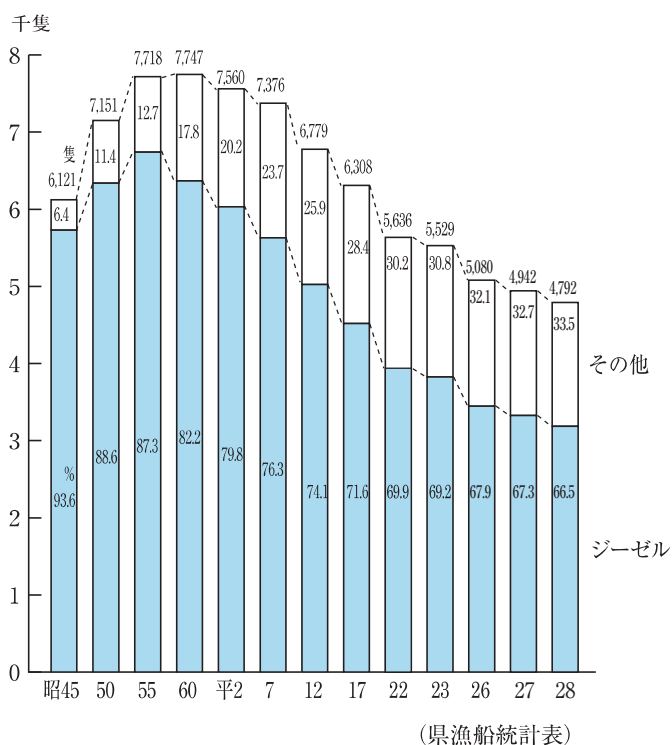
漁業種別海水動力漁船数の推移



トン数階層別海水動力漁船数の推移



機関種類別海水動力漁船数の推移



漁港の現況

本県には、94港（全国2,866港）の漁港（平成28年4月1日現在）と、118地区（全国4,156地区）の漁港背後集落（平成26年度末時点）がある。また、漁港の種類は、その利用範囲によって下表のように分類されている。

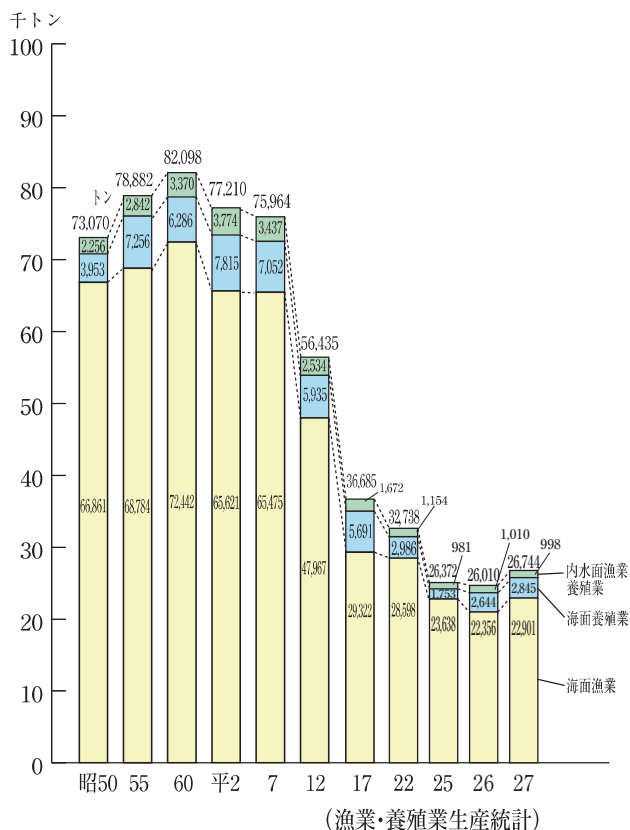
種別	漁港合計	分類の説明
第1種漁港	77	利用範囲が地元の漁業を主とするもの
第2種漁港	11	利用範囲が1種より広く3種に属さないもの
第3種漁港	4	利用範囲が全国的なもの
第4種漁港	2	漁船の避難上特に必要なもの
港合計	94	

3) 水産業の生産

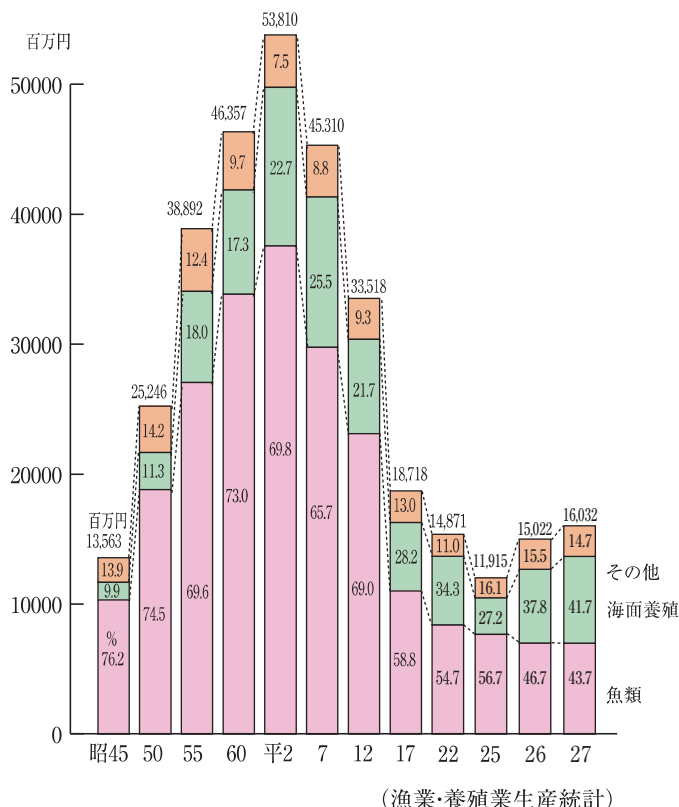
漁業・養殖業の生産量は昭和61年の88,108tをピークに減少傾向にあり、平成27年は26,744tとなっている。

海面漁業・養殖業産出額は平成2年をピークに減少傾向であり、平成27年は養殖くろまぐろの産出額が増加した影響等により、160億32百万円と前年より増加したものの、ピーク時の29.8%となっている。

漁業・養殖業部門別生産量の推移



海面漁業・養殖業産出額の推移



生産量

〔平27〕	全国				和歌山県		
	(t)	実数	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
海面漁業	3,550,003	22,901	27	0.65	北海道	長崎	茨城
魚類	2,867,065	21,523	27	0.75	北海道	長崎	茨城
えび・かに・いか・たこ	244,735	616	35	0.25	北海道	青森	長崎
貝類	291,605	65	36	0.02	北海道	愛知	千葉
海藻類	94,084	471	14	0.50	北海道	愛知	青森
海面養殖業	1,069,017	2,845	24	0.27	北海道	広島	青森

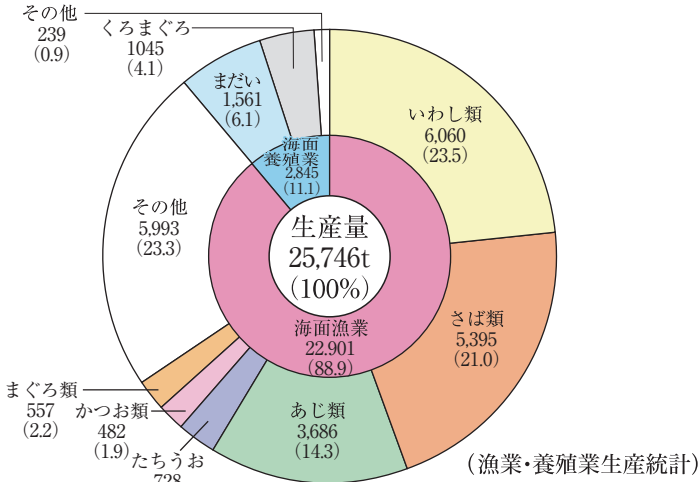
産出額

〔平27〕	全国				和歌山県		
	(百万円)	実数	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
海面漁業	1,000,861	9,351	28	0.93	北海道	長崎	静岡
海面養殖業	486,903	6,681	19	1.37	北海道	愛媛	鹿児島

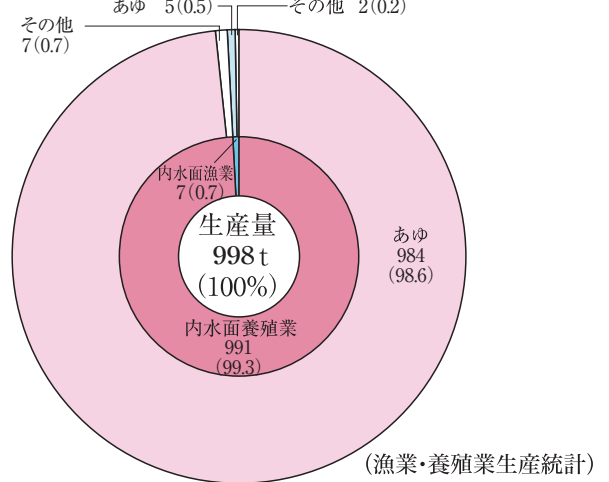
4) 主な魚種別漁獲量・産出額の推移

平成27年の魚類別の生産量は、海面漁業では、いわし類26.5%、さば類23.6%、あじ類16.1%、たちうお3.2%となっている。海面養殖業では、まだいが54.9%、くろまぐろが36.7%を占め、内水面養殖業では、あゆが99.3%となっている。

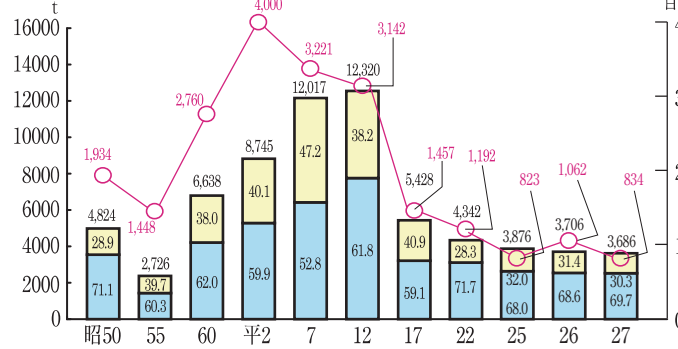
海面漁業、養殖業魚種別生産量 (平27)



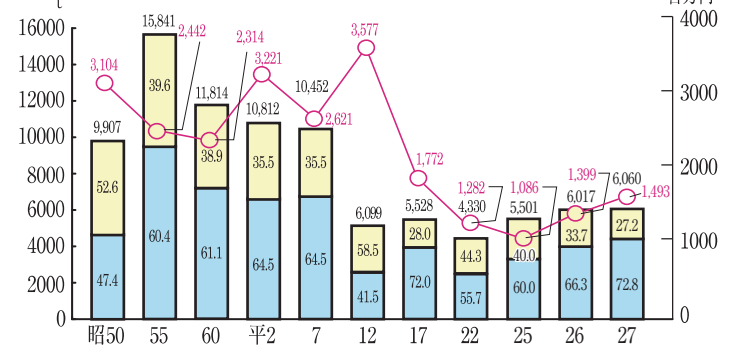
内水面漁業、養殖業魚種別生産量 (平27)



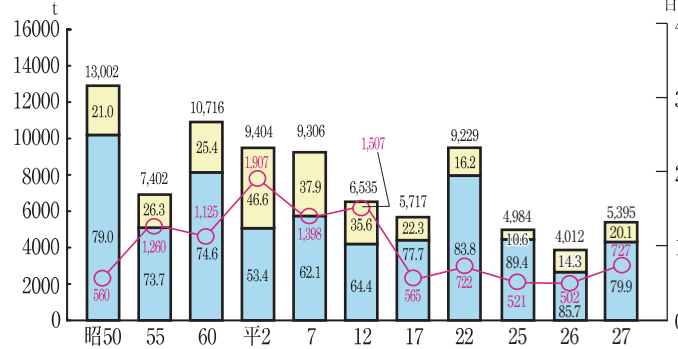
あじ類



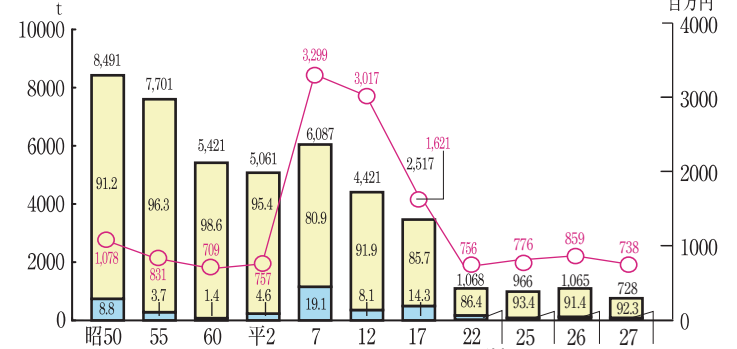
いわし類



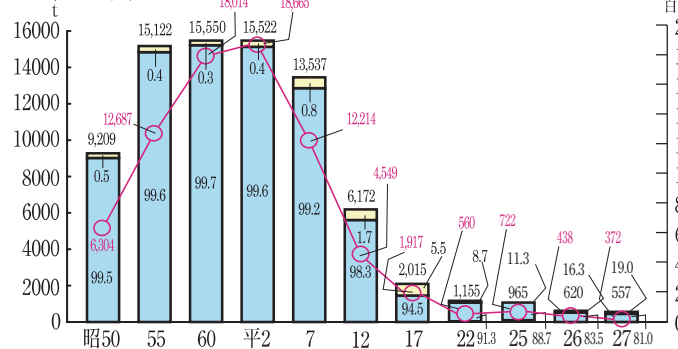
さば類



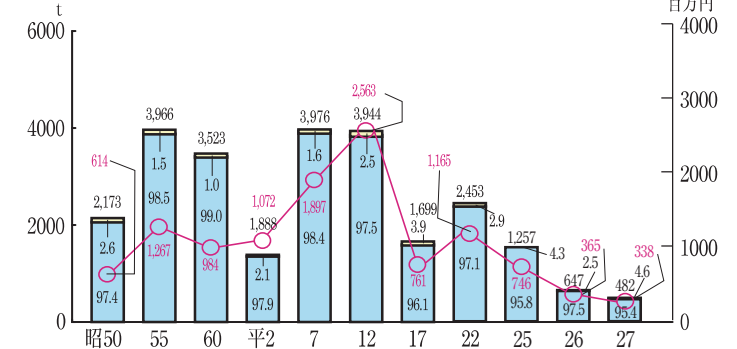
たちうお



まぐろ類



かつお類



魚獲量 瀬戸内海区 太平洋南区

産出額 (百万円)

※「x」は統計法に基づく秘密保護のため、公表されていないものです。

(漁業・養殖業生産統計)